

---

# 仮面ライダーディケイド×スイートプリキュア 新たな出会いと戦い！

R × P

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

仮面ライダーディケイド×スイートプリキュア 新たな出会いと戦い！

### 【Nコード】

N3496W

### 【作者名】

R x P

### 【あらすじ】

かつて世界の破壊者と呼ばれたディケイドが何とスイートプリキュアの世界に入ってきた！？ 新たな戦いが今幕を上げる！

プリキュア達の会話と始まり（前書き）

タイトルを変更しました。内容は一緒です

## プリキュア達の会話と始まり

ここは加音町、いつもの用に学校に向かい話しをしながら、三人のプリキュアのメンバー  
中学生が歩いてた。

響「ねえ、奏、エレン今週の日曜日2人とも予定空いているかな？」

奏「うん、その日はちょうどお店が定休日だから空いてるわ」

エレン「私も特に用事は無いけど急にどうしたの響？」

響「実はね、私昨日夕飯の買い物しててね、福引きしたの、そうしたら、何と1等賞でオーケストラのチケット三枚ゲットしたのよ」

奏「それ本当！？すごいじゃない響」

エレン「よくわからないけど、すごいわ響、ところでオーケストラって何？」

エレンは人間の姿しているがメイジャーランドから来た妖精なので、普通なら知っている事もあまりよく知らないのだ。

奏「簡単に言うと沢山の楽器で演奏して音楽を楽しむ事よ」

響「しかも今回はスペシャルゲストも来るらしいよ！何か凄い腕は良いらしいんだけど少し無愛想何だって。」

エレン「へえ、どんな人何だろ、何か話し聞いてただけでワクワクしちゃう！」

こうして三人のプリキュアはワクワクしながらこの話しに盛り上がっていた。

コレが新たな戦いの幕明けになるとは思わず…

## プリキュア達の会話と始まり（後書き）

いかがでしたか？ えディケイド出来てない？  
いえいえ次回から  
出てきますよ。それでは

## 訪れる世界の破壊者？

ここは光写真館 響達が話してた頃に門矢士と旅をしている仲間達がこの世界に到着したのだ。

士「どうやら新しい世界に到着したらしいな。」

夏美「本当ですね。いったいどんな世界なんでしょう。」

ユウスケ「まずは色々調べてみて…」

海東「その必要は無い！ある程度なら僕は知っている」

士「ほう、さすが海東だな！それでここはどんな世界なんだ？

海東「スイートプリキュアの世界さ！

全員「プリキュア！？ なん【ですか】だそれ？」

海東「簡単に言えば普通の女子中学生が変身して戦う戦士の事さ、まあ僕達仮面ライダーとよく似ている存在だね。」

士「なるほどな、だいたいわかった！」ユウスケ「もうわかったのか！」

士「とにかくそいつらを探してだして聞いてみようぜ！」

夏美「「そうですね士君」

ユウスケ「まあそうだな、どこから探そうか？」

海東「とりあえず一回外に出て見よう。答えは外にあるかもしれない」

こうして士達、全員外に出てみたのだが…

夏美「あれ今回も士君服が代わってますね。」

士はキバの世界に行った時と同じくヴァイオリニストの服装に変わったのだ。

士「俺だけじゃなくお前らの服装も変わったぞ！」

何と海東以外のメンバーも服装が変わったのだ。

ユウスケ「俺は土の何かのマナージャーだな。」

夏美「私は土君のヘアメイク担当みたいです。」海東 土 さっそく悪いけど、僕は単独行動させてもらうね。色々とやることがあるから

土 どうせお宝探しでもするんだろ！ 勝手しろ

海東 まあ、そんな所かな〜じゃあまた後で 変身！ 「カメンライド！ デイエンド！ アタックライド インビジブル」

ユウスケ アイツまた勝手に！

夏美 土君良いんですか？

土 良いんだ 好きにさせてやれ、行くぞ！

こうして、土達の新たな世界での旅が始まったのだった

## ライダー&プリキュア初めて出会う戦士達！

次の日曜日、響はなんと寝坊してしまっただ。

響「ヤッバイ遅刻だ！ハミイ何で起こしてくれなかったの？」

ハミイ「ごめんニヤ」　ハミイもグッスリ眠ってしまってたのニヤ  
「」

響「とにかくダッシュで会場行かなきゃ　きゃ！」走ってた響は誰かとぶつかる。

？「いつてえ！な！どこ観て走ってるんだ！あぶねえだろ」

響「ごめんなさい　あたし急いでたから、本当にごめんなさい。」

？「まあ急いでいるんだったら仕方ないな。早く行けよ！」　男は響を立たせながら言った

響「ありがとうございます！失礼しますね。」

響はダッシュで会場に行った。

士「ったくちゃんと前見て走れよな。ヤバい！俺も時間に遅れている急がないとユウスケに怒られるな！」

一方奏とエレンはすでに約束の場所に来ていた。奏「響遅いな」もう後10分で始まるのに」

エレン「寝坊でもしたんじゃない？　あつ響が来たよ　」エレンが手をふる。

響「ハアハア、2人とも本当にごめんね！実は寝坊しちゃって人にぶつかって」

奏「もういいから早く行こう！始まるよ」

三人は会場に入って行ったその後、マイナーランドの刺客トリオ・ザ・マイナーが姿を表して不気味な笑顔で言った。

バストラ「プリキュアどもせいぜい楽しむがいい！不幸な音楽をな！いでよ！ガイアネガトーン！」

トリオが叫びながら音符とガイアメモリを会場内にあつたシンバル



に投げつけた！そのころ、先に会場の控え室の中にいた士は うん？と何かの気配を感じていた！

ユウスケ「士？どうしたんだ？」

士「いや何でもない気のせいだ」 と言ったその時！！？、突然会場から爆発音がした！！士達は一斉に走り出し会場に行くとそこには、観た事もない怪物が暴れていた！

士「ちっ面倒なヤツが現れたな、ユウスケ！お前は逃げ遅れた人を助ける！俺はコイツを何とかする！」

ユウスケが無言で頷くと素早くカードを構え変身する！

士「変身！」【カメンライド デイクライド！】

デイクライド「さあ、いくぜ！」

？「待つてあたし達も！」デイクライドが振り返ると、そこには、響達三人が立っていた！

響「またネガトーンね！でも隣いる変な仮面の人誰だろう？」

奏「響！今はネガトーンが先よ！」

エレン「早く行きましょう」

響達「せっかく皆が楽しみにしていたオーケストラを台無しにして！絶対に許さない！」

三人「レッツプレイ！プリキュア・モジュレーション！」

メロディー「爪弾くは荒ぶる調べ！キュアメロディ！」

リズム「爪弾くはたおやかな調べ！キュアリズム！」

ビート「爪弾くは魂の調べ！キュアビート！」

届け！3人の組曲！スイートプリキュア！

三人が名乗りあげポーズを決める！

デイクライド「あいつらがこの世界の戦士プリキュアか…うん？真ん中ヤツはさっき俺とぶつかった子か？しかも名前は響って言うのか！？」

デイクライドはかつて共に戦った仲間の1人ヒビキこと、仮面ライダー響鬼を思い出しながら言った。

デイクライド「やれやれまた面倒な事になりそうだ。」

こうして運命的な出会いをした2人 はたしてこの戦いの行方は！  
？ …… 続く！

ディケイドVSプリキュア！勘違いでバトル？（前書き）

修正と戦闘パート変えました。ではどうぞ！

## ディケイドVSプリキュア！勘違いでバトル？

プリキュア達「ハアア」

三人はシンバルネガトーンに同時パンチを叩き込む！しかし！！ガチン

三人「イッターイ」

何とプリキュア達のパンチは全く効かず三人を跳ね返してしまったのだ。

メロディー「もうスツゴく痛いじゃない！」

リズム「アイツ体堅すぎ！何て体してるのよ！」

ビート「こうなったらキックよ！」

三人は体制を立て直すと今度はキックを放つのだが！？ガチン！？再び跳ね返されられ、三人は悲鳴を上げながら壁に激突する。

ディケイド「仕方ないな手を貸すぜ！！」【アタックライド・スラッシュ！】

ディケイドのライドブッカーが瞬時に剣に変形してネガトーンに切りかかる！！しかし！！

ガチン！何とディケイドの剣ですらネガトーンの体に傷一つ付けられなかったのだ！

ディケイド「何！クソ！なんて堅い体なんだ！なら、ブラストはどうだ！！」

【アタックライド・ブラスト！】

今度はライドブッカーを銃に変形させて攻撃する。だが！やはりネガトーンは無傷だった。

ディケイド「バカなコイツも効かないのか！？」

次の瞬間ディケイドはネガトーンにぶつ飛ばされる！ディケイド「グワア！？クソ！体が堅いだけじゃなくパワーも高いな。」

メロディー「こうなったら私たちの必殺技で！行くよ、リズム！ビート！」

リズム「オツケ」ビート「わかったわ！」

壁から脱出したメロディー達が必殺技の体制に入る。

メロディー「奏でましょう。奇跡のメロディ〜ミラクルベルティエ！ おいでミリ〜」

リズム「刻みましょう。大いなるリズム！ファンタスティックベルティエ！ おいでファリ〜！

ビート「吹き鳴らせ愛の魂！ラブギターロード！ おいでソリ〜」  
三人は同時に必殺技を繰り出す

メロディー&リズム「プリキュア！ミュージッククロンド！」  
ビート「プリキュア！ハートフルビートロック！」

三人のリングがネガトーンに命中しネガトーンを浄化し始めるのだが！シンバル（ここから名前変わります）は何と三人のリングを破壊し脱出してしまったのだ！？

プリキュア達「ウソ！浄化に失敗した？どうして？」

ディケイド「どうやらお前らの技だけでは浄化出来ないらしいな。」

ディケイドは立ち上がりながらそう言うのとプリキュアの隣に立つ。

メロディー「じゃあどうすればいいの？仮面のおじさん」

何とメロディーは勝手にディケイドのあだ名を付けていた！

ディケイド「俺は仮面のおじさんじゃない！通りすがりの仮面ライダーだ！！覚えておけ！！」

リズム「仮面ライダー？」

ビート「何それ？」

のひと言にディケイドは首をやれやれと振り教える

ディケイド「俺は仮面ライダーディケイド！色々な世界を回って…」

と当然シンバルが待ってる訳が無く攻撃を再開する。

ディケイド「ちっ話しは後だ、今はコイツを！！」

攻撃を避けながら、

リズム「だけど、どうすればいいの？普通の攻撃じゃ全く傷一つ付かないし？」

ビート「それにこのネガトーンいつも以上に強いわ！きっと何か特

別な力が混じっているのよ」

と言った直後その通りだとトリオ・ザ・マイナーが現れる

トリオ「我々はメフィスト様から新たな力を与えられたのだ！それを使って新たなネガトーンいや、ガイアナネガトーンを生み出したのだハハッハハ」

メロディー「ガイアナネガトーン？ あんた達一体何の力を使ってネガトーンを強化したの！？」

トリオ「特別に教えてやろう。それはガイアメモリとか言うアイテムだ！！」

プリキュア達「ガイアメモリ！？何よそれ！！」

ディケイド「俺が教えてやる。ガイアメモリってのは、地球の中にあるあらゆる記憶を埋め込んだUSBメモリのような形をした道具の事だ。もともと本来この世界には無いはずだが…なぜ貴様らが持っている！！」

トリオ「知るか！我々はメフィスト様から譲り受けただけだ。さあプリキュア共よ覚悟しろ！！」

シンバルが近づいてくる。

メロディー「くっ 一体どうすれば！？」リズム「何か方法があるはずよ！諦めないで！！」

ビート「せめてそのガイアメモリの位置が分かればいいのに！」

とビートがつぶやく。

ディケイド「正確な位置か！よし、ここは俺に任せろ！ちょうどいい！新しいカード使ってみるか！！」

ディケイドはライドブッカーから一枚のカード取り出しベルトのバックルに装填する。

【アタックライド・スキャン！】

するとディケイドの目が光を出してシンバルの全身をスキャンする！

ディケイド「見つけたぞ！！ヤツの頭の中だ！！」

メロディー達「すごい！けど、どうやって見つけたの？」

ディケイド「俺の新しい力 スキャンのカードを使ったのさ！さて

お前のメモリを破壊する方法がだいたいわかった！」

メロディー達（だいたいわかったってそんな大ざっぱな事でいいの  
く？）

ディケイド「よし！そっちが洋楽器ならこっちは和楽器で勝負だ！  
！ 変身！」

【カメンライド！ヒビキ】

ディケイドは無視しながらD響鬼にカメンライドした。

メロディー「鬼みたいな仮面ライダーになっちゃた」

驚く三人！

D響鬼「さあ一気に決めるぜ！」

【ファイルアタックライド・！ヒ・ヒ・ヒ・ヒビキ！】

いつの間にか音撃棒を取り出しシンバルの頭に飛び乗りその上に大  
きな太鼓の紋章みたいな物出してそれを叩き出す！

D響鬼「俺がこの技で中のメモリを破壊するお前らはその後にもう  
一度浄化を！」

メロディー達「わかったわ」

D響鬼「いくぜ！！音撃打 爆裂強打の型！！」

D響鬼は響鬼の最強技の1つ音撃打 爆裂強打の型を炸裂させる！  
ネガトーン！？悲鳴を上げた瞬間に頭の中にあつたガイアメモリが  
排出された！

D響鬼「今だ！！」

メロディー&リズム「プリキュア！ミュージッククロンド！」  
ビート「プリキュア！ハートフルビートロック！」

三人のリングがシンバルに命中する

メロディー達「三拍子！ 1・2・3！フィナーレ！」今度は見事  
に浄化に成功しシンバルは元のシンバルに戻る。するとカバンの中  
に隠れていたハミイが出て来て音符を浄化する。

ハミイ「やったニヤ 大成功ニヤ」

D響鬼「猫が喋った」啞然としながらD響鬼は元のディケイドに  
戻る。

トリオ「クツソゝ覚えて居ろよプリキュア共に仮面ライダー！」

ディケイド「仮面ライダーだ間違えるな！」

トリオ・ザ・マイナーは去って行く。

ディケイド「さて俺の役目は終わったな。しかし何故だ？メモリが破壊されてない？どういう事なんだ？」と考えていたら、

メロディー「さて！さっきの話はまだ途中だったからちゃんと話して！」

ハミィ「待つニヤメロディーソイツはとても危険なヤツだニヤ」

突然ハミィが割り込んで来た。

リズム「どうして危ないのハミィ？この人私たちを助けてくれたんだよ？」

ハミィ「昔アフロディテ様がハミィだけに教えてくれた事ニヤ」ソイツは世界の破壊者ディケイドだニヤ」

2人「なんですって！！」

ディケイド「それは昔の話した！今は違う今の俺は……」

ディケイドが話し始める前にビートが攻撃を仕掛け始めたのだ！？」

ディケイド「いきなり何するんだ。あぶねえだろ！！」

メロディー「ビート待って！話を聞いてあげようよ！」

ビート「メロディー！実は私もメフィストから聞いた事があるの！！今ハミィの話して思い出したわ。確かディケイドは訪れた世界を最終的には破壊するって言ってたの！！」

メロディーとリズム「そんなそれ本当なの！！」

ディケイド「だから違うって言っているだろう！！俺はもう世界の破壊者じゃない。ただ様々な世界を旅をしているだけだ。」

ビート「それなら何か証拠でも出して！！」

構えるビート！

ディケイド「証拠？そんなものすぐに用意出来るか！」

ビート「証拠が無いなら容赦しないわよ！」

するとビートはまたディケイドに攻撃をして来る！

ディケイド「全く何でこうなるんだ！仕方ない！変身！」



【カメンライド・オーズ！】

【タカ・トラ・バッタ！タ・ト・バ！タトバタ・ト・バ】  
独特の歌と共にディケイドはDオーズにカメンライドする！

メロディー「また姿が変わったわ！」

リズム「今度は三色？しかも今変な歌が？」

Dオーズ「歌は気にするな！」

リズムに向かって言うDオーズ！

ビート「姿を変えても同じよ！ビートソニック！」

ビートはビートソニックをDオーズに放つ

Dオーズ「どうか？このスピードならかわせるぜ！」

ディケイドはラトラーターのカードを装填する！

ディケイド「変身！」

【フォームライド・オーズ！ラトラーター！】

【ラタラタ〜 ラトラ〜タ〜】

Dオーズはラトラーターコンボに変身する！

ビート「色が同じ色に！」

Dオーズはラトラーターの力で余裕ビートソニックをかわして跳び

ビートに連続蹴りを浴びせる！

ビート「ビートソニックが当たらない？キャアア！」

2人「ビート！」

だがビートは素早く体制を元に戻す！

ビート「やるわね！」

Dオーズ「次はコイツだな！」

【フォームライド・オーズ！ガタキリバ！】

【ガタタガタキリバ！ガタキリバ！】

Dオーズはガタキリバに変身する！

ビート「メロディー！リズム！手伝って！私一人じゃあ倒せないわ  
！」

2人「わかったわ！」

2人は迷いを捨ててDオーズと対人する！

Dオーズ「なら俺も増やすか！」  
三人「？」

するとDオーズはガタキリバの分身を49人作って数を増やす！

メロディー「うそ〜！」

リズム「多すぎ！」

ビート「なによコレ！」

構える三人

3人「はあ〜〜〜！」

Dオーズ達「はあ！」

互いに激しい格闘戦で戦い離れる

Dオーズ「やるな！さすがは戦士だけにあって動きもいい！（まさか分身が全滅するなんてな！）」

メロディー「はあはあ！あなたもやるじゃない！（しんどかった）」

リズム「でも分身は・・・全部やつけたわよ！（49人って鬼ね！）」

ビート「さあ降参しなさい！（この人只者じゃない）」

Dオーズ「降参？まだ俺はいけるぜ！変身」

【フォームライド・オーズ・サゴーズ】

【サゴーズ！サゴーズ！】

今度はサゴーズコンボに変身する！

ビート「また姿を！」

Dオーズ「こいつは効くぜ！」

するとDオーズはいきなりドラミングを始める！

Dオーズ「うおおおおおお！」

メロディー「えっ？なに？きやあ！」

突然三人の周りが重力が無くなり三人共浮かんでしまったのだ！

メロディー「どうなっているの〜？」

リズム「まさか！その姿って重力を操るの！」

Dオーズ「まあな！はあ！」

ゴリバコーンを発射してプリキュアにダメージを与える！

三人「きゃあああ！」

倒れる三人！

メロディー「もう！あつたまきたわ！」

三人は再びベルティエとソウルロットを取り出して必殺技を繰り出す！

メロディー&リズム「プリキュア！ミュージックロンド！」

ビート「プリキュア！ハートフルビートロック！」

Dオーズ「ならこっちも行くぜ！」

サゴーズからタトバに戻り黄色のカードを入れる！

【ファイナルアタックライド・オッオッオッオース】

Dオーズはそのままジャンプして出現した三色の三つのリング潜り抜けタトバキックを繰り出して互いに激突する！

Dオーズ「ぐわあああ！」

三人「きゃあああ！」

Dオーズはディケイドに戻りそして全員立ち上がる！

ユウスケ「ストップ！ストップ！」

ユウスケが間に入る！

メロディー「あなた誰？」

ディケイド「何だユウスケ？邪魔するなよ！」

ユウスケ「とりあえずみんな辞めてくれ！変身解こうな？」

ユウスケは笑顔で振り向いてプリキュアにも言う

ユウスケ「プリキュアのみんな誤解させて済まない！とりあえず話しあいたいんだ！いいかな？」

しぶしぶ頷きお互いに変身を解いた瞬間に響は大きな声で叫んだ！

響「あゝあなたさつき私とぶつかったお兄さんだったんだ！」

士「お前気づいてなかったのか！？まあいい。とりあえず自己紹介だ。俺は門矢士だ！よろしくな。」

ユウスケ「俺は小野寺ユウスケ！よろしくね！」

響「あたしは北条 響よ。」

奏「私は南野 奏です。」

エレン「黒川 エレンです。好きな色は？」

響&amp;奏「エレンストゥプー！簡単に名前だけでいいから」

ハミィ「ハミィって言うニャーさっきは失礼な事言つてごめんニャー」

士「別にいい、とりあえず俺が住んでいる家に行くぞ」

こうして全員士達が住んでいて夏美が留守番をしている光写真館に向かうのであった。続く

戦士たちの会話と新たな強敵！その名はデストロイド！（前書き）

一部を変更しました。  
ではどうぞ

## 戦士たちの会話と新たな強敵！その名はデストロイド！

数分後、ここは光写真館。中では本来は光栄次郎がいるはずのだが、どこかに出かけいるため孫の夏美が留守番をしていたのだ

夏美「全く留守番のせいで土君のオーケストラに行けませんでした。あつ土君にユウスケお帰りなさい早かったですね。あれ？その子達  
は？」

土「コイツらはこの世界のプリキュア達だ」

夏美「フーンそうなんですかって！え〜」いきなり夏美が大きな声をだして驚く！

土「バカ！いきなり叫ぶな！！ビックリするだろが！？」

ユウスケ「まあまあ土、仕方ないよ。いきなりそんな事言われたら誰でもビックリするぞ？」

響「あの〜玄関で話しをして大丈夫なんですか？」

ハツとして夏美は

夏美「あっそうですね。中にどうぞ。」

こうして全員中に入る。

響「うわ〜中もスツゴく古いし〜ボロボロだよ！」

奏「響あまり失礼な 言っちゃダメよ。こう言うのは、古風って言うのー！」

エレン「要するに古いお家って事ね」

夏美「そうですね。私の家はだいぶ昔から…」

土「おい夏美！今は昔話じゃ無くてお互い自己紹介と情報交換が先だろ？…ブス！！アハッハッハッハッ夏ミカンお前なにしゃ…！ハッハッハ〜」

光家秘伝のツボが土に炸裂する！

響達「えっ急に笑い出した？！いったいどうしたの？」

ユウスケ「まあまあ気にしないで！いつもの事だから？」

さらに数分後、やっと土がこれまでの出来事を話し始める。

士「俺達は色々な世界を渡り歩きずっと旅をしているんだ。」

士は話しながらディケイドドライバーとライドブッカーそしてカードを見せながら説明する

士「まあ色々な事もあったな。色々な敵と戦い、時に他の世界のライダー達とも戦った事もある。最終的には自分を破壊者として受け入れたが今は違う！俺はもう二度とあんな事はしたくないし、これから純粹に旅を楽しむ事にしたんだ。コイツらとな」

ユウスケと夏美が微笑む。

それを聞いて三人とハミイは士が破壊者だと思わなくなっていく、響「そうだったんですか。色々大変だったんですね。その話を聞いていたらなんだか士さんに悪い事したなって！あつ自己紹介遅れました。私は北条 響 こっちは奏、もう一人はエレンです。奏「今日は色々ありがとうございました。」

エレン「おかげでネガトーンも倒せましたし本当にありがとうございます。 後さ

つきはすみません！勝手な思い込みして！」

頭を下げるエレン

士「気にするないつもの事だし、もう慣れているからな。」

エレン「え？」

士「他の世界でもよく言われたのさ！悪魔だの破壊者ってな。」

エレン「そうなんですか！」

三人は驚きしばらくみんな黙る

士は自分たちの事を話したのもっとプリキュアについて説明してくれと言う。

響「じゃあ今度は私たちが話をしますね。」

響達はこれまでの事を話しプリキュアについて説明しながらキュアモジューレとフェアリートーンを見せる

士「なるほどな、お前らは要するにメイジャーランドの幸せの楽譜を完成させマイナーランドが不幸の楽譜を完成させない為に音符を集めて戦っているのか！？」

ハミィ「そうニヤゝ そうしないとハミィもセイレーンもメイジャ  
ーランドに帰れないのニヤゝ」

ユウスケ & amp; 夏美「ネネ猫が喋ったゝ」

ハミィ「ハミィは猫じゃないニヤゝ妖精だニヤゝ」

士「お前いつの間に？と言うかお前妖精だったのか！？ しかもセ  
イレーンってはだれだ！」

エレン「それは私の事です。実は私ハミィの幼なじみで、この姿は  
私が人間に変身した姿なの！！」

ユウスケ「すっげゝ！だったら他の変身も見せてよ！セイレーンち  
ゃん？」

エレン「ごめんなさい今は出来ないわ。変身能力は無くなってしま  
ったの。後ね、私の事はエレンって読んでください、ユウスケさん  
」

エレンは少し悲しい笑顔で話す。

ユウスケ「ごめん！エレンちゃん！本当にごめんね！」ユウスケは  
必至に謝る。

エレン「いいんですわかってもらえば」

士「これでお互いの事がだいたいわかったな。それともう一つ実は  
皆に見てもらいたい物があるんだが。

「士は先ほどの戦いで回収したガイアメモリを取り出す。

響「それってさっきのネガトーンの中に入ってたヤツよね！？」

奏「どういう事？破壊したはずじゃ？」

エレン「しかも何か書いてある。英語かな？」

メモリには英語でマッスルって書かれていた。

士「このメモリは本来ならこの世界には無いもので後は奏が言つて  
た通り破壊されていたはずだった。強い衝撃があれば破壊出来たは  
ずなんだがどういう訳か排出されただけだったんだ。」

全員が黙り込み沈黙する

？「その答えは僕が教えるよ！」全員が振り返るとそこには海東が



立っていた。

士「海東！お宝探しをしていたんじゃないのか！？」海東「いや！僕の本当の目的はそれさ。君が持っているそのメモリは僕が無くしたメモリだから、返してもらおうよ！」

と言つと素早く士からメモリを奪う。

士「お前のメモリだと？どういう事だ？」

海東「教えてあげよう。あれはちょうど、僕が1人で色々な世界を回っていた時だ」そう言つて旅の話とWの世界について話す。

海東「僕はその頃ちょうどWの世界にいてある組織から三本の新型ガイアメモリをいただいたのさ」

響と奏「それつて明らかに泥棒じゃない。」

と怒った二人が変身しようとするのをエレンが必死で止める。

エレン「待つて二人ともストップ！話を聞いてから」

二人「止めないでエレン」士「うるさいな」夏美あれをやれ！

夏美「えつでもあれは」

士「いいからやれ！うるさいから話しも聞けやしない。」

夏美は仕方なく、響と奏に笑いのツボを突きさす。

【ドス！ドス！】

二人「！！えつアハハハ何これアハハハ！？」

二人は笑い出した。」

エレン「2人とも大丈夫？どうしたの」

士「心配するな時期に治まる！さて、それじゃあ海東話しの続きだ。」

海東「いいのかい？じゃあいくよ。僕が盗み出したメモリはガイアメモリT3と言う！名前はマッスル、ソルジャーそしてデストロイだ。」

士「マッスルはわかるが他の二本は相当ヤバそうだな。他のメモリはどうしたんだ？まさか無くしたんじゃないよな！」海東「そうじゃない実はマッスルメモリとデストロイメモリは士の所に戻る途中に謎の男に奪われてね。唯一残ったのがソルジャーメモリだつ

たんだ。」そう言うとメモリを見せる。

海東「しかもこれらのメモリは従来型と違って破壊出来ないし、物体や道具などをドーパントに変化させる事が出来るみたいだね！

まあ今は実験段階のプロトタイプだけだね。」

士「プロトタイプって事はまだ未完成品って事か！だったら何故あのガイアネガトーンは凄まじいパワーが出せたんだ？」

海東「おそらくあの怪物の中に入った時にドーパント以上に過剰適合反応が発生したんじゃないかな？まああくまで推論だけどね。」

士「なるほどな！って言うかお前あの時同じ場所にいたのか？あの時何故戦わなかったんだ？」

海東「戦うのが面倒だったし、それに4人もいたから十分だと思っ  
てね！だから加勢しなかったのさ！」

士「お前なあゝ」

士は困惑した。

響達「あのドーパントって何ですか？」

ようやく落ち着いた2人は話しかけてきた。

士「ドーパントって言うのはガイアメモリをコネクターで直接自分の体に差して変身する超人いや、怪人に変化する事だ。後、過剰適合ってのはメモリと人間の相性が良すぎて過剰に力が上がる現象のことだ。最もこれはWの世界でしか起こらない現象なはずなんだが！」士はWの世界の事も語り出そとしたその時！！ズドゥン（うわゝキャゝ）悲鳴と共に大爆発が起きたのだ。

士「何だ？今の爆発は！？」

海東「まさか！アイツが来たのか！」

響達「アイツ？って誰ですか？」

海東「さっき言ってた謎の男さ」

士「おいソイツは鳴滝じゃないよな？」

海東「違う！アイツは君によく似ていたんだ。しかも君以上に極悪人さ！」海東が拳を握りながら言った。

士「俺に似ていただと！？今度は俺の偽物って訳か！」

ユウスケ「とにかく早く現場に行こう。」

夏美「わかりました皆さん行きましょう。」

士「いや夏美お前は残れ」

夏美「なんですか！」

士「じいさんが心配だ！お前まで来たらじいさん心配するぞ！」

夏美はため息をして

夏美「わかりました！士君氣をつけてください！」

士「ああ！みんな行くぞ！」

士はマシンデイクイダーにサイドカーを付けて響と奏を乗せる。ユウスケはエレンをトライチェイサーの後ろに！そして海東はなんとカメンライドで仮面ライダーアクセルを呼び出してファイナルフォームライドでバイクに変形させたのだ。

士「おい何だそれは？」

響「まるでバイクみたいな仮面ライダーね。」

海東「僕の新しいお宝で新しい力の一つさ！さあ行こう！」

こうして夏美以外の全員が爆発のあった場所に移動した。

士「おい、アイツがそうか？」

バイクから全員降りながら士が海東に聞く。

海東「間違いない彼だ！」

海東にしては珍しく恐怖に震えていた。

士「お前が震えているって事は、相当ヤバいなヤツだな！おいお前一体何者だ！」

？「俺か？俺はお前の心の闇と憎みで生み出された。もう一人のお前だ！名前はそうだな、門矢壊って って名乗るか！」

士「壊だとふざけるな！お前が俺だと言うのなら勝負しろ！」

壊「良からう。ただし1対1の対決でだ！」

士「望む所だ！行くぜ変身！」

【カメンライド・デイクイード！】

士はデイクイードに変身し皆に言う。

デイクイード「お前らは下がれ！ヤツは俺が倒す！」

壊「ふん！ゆくぞ変身！」

【カメンライド・デストロイド】

壊はディケイドドライブによく似たバックルデストロイドドライブでどす黒い音声と共に変身する。

ディケイド「デストロイドだど！」

響達「やっぱり私たちも戦います。」

全員が変身体制を取る。

デストロイド「残念だがお前達はコイツらと遊んでおけ！」

と指を鳴らす。するとオーラが現れ中から仮面ライダーエターナル

仮面ライダー王蛇が現れる。

王蛇「ここが祭りの場所か！随分楽しそうな場所に来たもんだな」

エターナル「ここに盗まれたメモリがあるって聞いていたが、中々良いところだな、さあ、地獄を楽しみな！」

ユウスケ「アイツら別の世界のライダーか？」海東「皆注意しろ！

アイツらはかなり強いぞ！」

響「何アイツら？ スッゴク強そうなんだけど」

奏「だけどここは！」

エレン「やるしかないわ！」

三人はキュアモジュールを構え変身する

三人「レッツプレイ！プリキュア・モジュレーション！」

メロディー「爪弾くは荒ぶる調べ！キュアメロディ！」

リズム「爪弾くはたおやかな調べ！キュアリズム！」

ビート「爪弾くは魂の調べ！キュアビート！」

三人「届け、3人の組曲！スイートプリキュア！」

決めポーズで決める三人

海東「じゃあユウスケいくよ！」

ユウスケ「ああ！」

2人「変身！」

【カメンライド・ディエンド！】

ブーン！ブーンブーンブウンターン！

2人は仮面ライダーディエンドと仮面ライダークウガに変身する。

メロディー「2人共仮面ライダーだったの？」ディエンド「まあね。さあ皆いくよ！」

ディケイド「お前が指切るな！」

クウガ「どうでもいいだろ！行くぞ皆」

こうして謎の男、門矢壊と名乗る男事仮面ライダーデストロイドとの対決が始まったのだった。果たしてこの戦いの行方は！ 次回に続く？

オリジナルライダー、      ディケイドの新たな力、      新型ガイアメモリの秘密（前

オリジナルライダーなどの設定です。

同じ名前を使っている人がいたら、すみません！

ですが安心してくださいます。中身も設定も全くの別人ですので！それではどうぞ！

モモタロス「早く出番出せ！退屈だ！」

暴れないでくれ！モモタロスさん

## オリジナルライダー、　　ディケイドの新たな力、　　新型ガイアメモリの秘密

門矢壊

士の心の闇と憎みがガイアメモリT3デストロイの力によって具現化し誕生した姿。

士以上に極悪人で自分が本当の世界の破壊者だと思っている。性格は非常に好戦的だがクールに戦うのを好み、1対1の対決などを好む。またオリジナルの士同様ナマコが嫌い。

仮面ライダーデストロイド

門矢壊がデストロイドドライバーで変身した姿。見た目は、ディケイド激情態と同じ姿をしているがマゼンタの部分が全て黒く目が赤いのが特長。

ディケイド激情態と同じく全てのライダーの能力が使う事が出来、さらに激情態のステータスを更に上回る。

自分自身の必殺技はデストロイドキック。

デストロイドブッカーを使った必殺技

ソードモード「デストロイドスラッシュ」

ガンモード「デストロイドシュート」

アックスモード「デストロイドクラッシュ」

ランスモード「デストロイドレイン」がある

デストロイドドライバー

色が違うだけで基本的にはディケイドドライバーと同じ性能だが、ディケイドドライバー以上に頑丈である。

デストロイドブッカー

ライドブッカーと同じ能力を持っているが、唯一違うのは第三形態にアックスモード　第四形態にランスモードがある。

### ガイアメモリT3

ネバーが開発していた新型ガイアメモリの試作品。未だに実験段階のメモリだが、従来型と違い道具や物体をドールパントにする事が可能になった。このメモリは今の所、基本性能はガイアメモリT2の強化型になっている。

### ディケイドの新たな力

#### アタックライド・スキャン

ディケイドが新たに使える用になった能力の1つ、相手をディケイドヴィジョンでスキャンし情報を検索したり相手の体をスキャンして中を調べる事が出来る。  
透明になった相手もスキャンする事が可能。

### 新型ディケイドドライバー

新たにWとオーズの紋章が追加されている。基本的には同じ物だがディケイド自身の能力が全て上がっている。

### ディケイドアドバイザー

ディケイドが海東から受け取った新たなアイテム。形はディエンドドライバーのカード装填口をコンパクトに直しディケイドのマークが真ん中に着いている

ライダーカードを二枚まで装填する事でライダーを召喚出来る。

ただし、ディケイドが変身出来るライダーだけしか出来ない。（現在はオーズまで）

召喚されたライダーは原作のライダーと同じ意識を持ち同じ用に戦う。（ただし士の言うことは聞く）

制作者はWの世界のフィリップ

物語では次回作に出る予定！



オリジナルライダー、　ディケイドの新たな力、　新型ガイアメモリの秘密（後

いかがでしたか？

次回は本編に戻ります。ではまた！

モモタロス「いい加減ん頭にきたぜ！！いくぜ俺の必殺技！モモタロスバ！ジョーン」

士「いい加減にしろモモタロス！アタックライド・ブラスト！」

モモタロス「ギャ！ケツが！ちくしょう！」

あゝあ！やられちゃった。

## ディケイド&プリキュアVSデストロイド前編（前書き）

今回は前半と後半に別れます。後いよいよスペシャルゲスト事、俺の大好きなモモタロスが登場します。

モモタロス「待ちくたびれだぜ！さあひと暴れしてくるから俺様の大ファン共よ！大活躍に期待してくれよな！

大丈夫かなモモタロスさん…

## ディケイド&プリキュアVSデストロイド前編

ディケイド「いくぜ！おりゃあ〜」

ディケイドはデストロイドにパンチを喰らわす！しかし！ガシ！とデストロイドはディケイドのパンチを受け止める。

デストロイド「なんだ随分ヌルいパンチだな！実力の差を思い知らせてやるう。」

ディケイド「そうかよ！だったらコレはどうだ！」

ディケイドはライドブッカードをソードモードにしてデストロイドに切りかかる。

デストロイド「ふん！甘いな！」

デストロイドもデストロイドブッカードソードモードでライドブッカードを受け止める。更に2人は剣を巧みに操り互いに切りかかる。

ディケイド「やるな！さすが俺の力を持つだけにやるじゃないか？」

デストロイド「貴様の實力はこんなものか！もっと見せてみる！」

ディケイド「まだまだコレからだ！」と2人の剣さばきは更に早くなる。（キ〜ンキ〜ンガキ〜ン）

ディケイド「くっこれじゃあキリがない！次はコレで勝負だ！」

（アタックライド・ブラスト）

デストロイド「全く、甘いヤツだな！」

（アタックライド・ブラスト）

今度は互いに走りながら銃で打ち合う！だが：

ディケイド「グワァ〜」ディケイドは力負けし吹き飛ばされる。

デストロイド「言ったハズだ！実力の差があるってな〜？」

ディケイドは立ち上がりながら

ディケイド「だったら喧嘩が得意なライダーで勝負だ！ 変身！」

（カメンライド・デンオウ）

ディケイドはD電王に変身する。

D電王「電王って言ったらコレだな！なっしまった間違えた！」

（アタックライド・オレ！サンジョウ！）

D電王「仕方ないな！とりあえず、俺<sup>バンバン</sup>参上」とポーズを決める！  
メロディー「何かダサイ名乗りねえ」

リズム「センスがないわね」

ビート「みんな、集中して！来るわよ！」

エターナルがエターナルエッジを振り回し王蛇が剣で攻撃して来るので、プリキュア達は攻撃を避けながら話して来る。

D電王「しょうがねえだる俺の決めセリフじゃねえし！だいたいあのモモタロスが」

D電王がキレながら説明していると！

？「おい俺に変われ！そんなダサイポーズは俺の恥だ！」突然赤い光がD電王に入る。

メロディー「何？今の光？土さんの中に入ったけど！」

するとD電王は突然キャラが変わりビシッと先ほどのポーズを決める！

MD電王「俺！参上！」

リズム「さっきよりビシッとしてカッコ良くなったわ！けど急にどうして？」

土「お前！モモタロスか！どうしてこの世界にいるんだ？」

モモタロス「お前あの時の通りすがりの野郎か！言いたくないんだが、教えてやる！今日はハナクソ女にデンライナーから吹き飛ばされてここに飛ばされちまったんだよ！アイツ帰ったらただじゃおかねえからな」

土「お前また飛ばされたのか？何やってんだか。ってそうじゃなかった。」

デストロイド「何だ貴様！土ではないな！答えろ！」

モモタロス「うるせえ！黒子野郎！言っておくが俺には前振りはない！最初から最後までクライマックスだぜ！　いくぜいくぜいくぜ！」

MD電王は再びソードモードでムチャクチャにデストロイドに戦い

を挑む。

デストロイドも剣で応戦する

デストロイド「むっ貴様中々やるな！？何者だ？」

モモタロス「俺か？俺はモモタロスだ！覚えおけよ！」

メロディー「土さんに取り憑いたのつてもしかして幽霊？」

ビート「ひいゝ幽霊！？やだゝやめてゝ」

ビートが逃亡しようとするのをリズムとクウガが必至に止める。

リズム「ビート落ちていて多分あれは幽霊じゃないから」

ディエンド「全く君は世話が焼けるね。あれは幽霊じゃない。イマジンだ！」

メロディー「ヒマジン？」

リズム「違っってイマジンよ！海東さんイマジンって何ですか？」

ディエンド「イマジンは電王の世界にいる怪人のことだ。今、土に憑依しているのは正義のイマジンモモタロスさ」

ビート「なゝんだ幽霊じゃ無かったんだゝ良かったゝ二人ともごめんねゝもう大丈夫だよゝ」

リズムとクウガが手を離す。

王蛇「よそ見るんじゃねえ！」敵が切りかかって来るので全員かわす！

プリキュア達「はあゝプリキュア！トリプルパンチ！」

プリキュア達のパンチが見事に決まり王蛇が怯む。

王蛇「ちっだがまだまだ！」

王蛇はファイナルベントを発動する！

（ファイナルベント）

王蛇はベノクラツツシュを発動する

王蛇「死ねゝ！」

ディエンド「ユウスケ使いたまえ！」

すばやくドライバーを投げ渡す！

クウガ「わかった！超変身！」

クウガはペガサスフォームに変身してペガサスボウガンブラストペ

ガスを放つ

クウガP「ハ〜！ハア〜〜〜！」

ボウガンを引いて弾丸を放ちベノクラッシュを放った王蛇に命中する！

王蛇「ぐあ〜〜〜！くそ！」

地面に叩きつけられる王蛇

デストロイド「王蛇よ一旦引け！後は我々に任せろ。」

王蛇「ちっわかったぜ。」

王蛇がオーラに退散する。

クウガ「サンキューなコレ」

ドライバーを投げ渡す

ディエンド「どういたしまして」

エターナル「情け無いヤツだな。まあいい後は俺1人で充分だ」  
再び互いに戦闘に入る。

その頃モモタロス達は？

MD電王「ぐわあ〜」

とやられていた。

MD電王「ちくしょう〜この剣は使いやすいんだが、やっぱりいつもの剣も使いたいぜ！」

士「あるぜ！モモタロス、ライドブッカーにむかってデンガッシャーを想像しろ」

モモタロス「悪い！形忘れた！」

士「しょうがね〜な 貸してみる。」

するとライドブッカーから一枚のカードが出てきてMD電王がそれを掴む。

MD電王「おっデンガッシャーだ。」

カードをバックルに装填する！

（アタックライド・デンガッシャー）

するとデンガッシャーソードモードがMD電王の手に収まる。

MD電王「よっしゃ〜いくぜいくぜいくぜ〜」しかし！バシ！何と

デストロイドはデストロイドブッカーランスモードでMD電王をなぎ払ったのだ。

その衝撃でモモタロスがD電王から飛び出し、D電王も元のディケイドに戻る。

ディケイド「いててモモタロス大丈夫か？」

モモタロスは先ほどの衝撃で実体化してディケイドの隣で気絶していた。

デストロイド「さあ、お遊びはここまでだ！」

ディケイド「仕方ないここはコンプリートフォームで行くか！　うん！？　ケータツチが無い！？　なぜだ！　まさか忘れたきたのか？」

ディエンド「ケータツチは僕が預かるって話しただろ？」

ディケイド「海東お前盗ったのか？」

ディエンド「違う、僕を含めてバージョンアップするから君から借りたのさ」

ディケイドはその事を思いだした。

ディケイド「今はどこにあるんだ！」

ディエンド「Wの世界にいる天才少年のフィリップ君に預けてある。今日中は終わるハズさ」

エターナルがトリガーマグナムで攻撃をしてきたので、ディエンドが避けながらあるアイテムを取り出してディケイドに投げ渡す。

ディエンド「受け取りたまえ士！　僕からのプレゼントだ」

ディケイドもデストロイドの攻撃を避けながらそれを受け取る。

ディケイド「これは？」　ディエンド「僕がWの世界で天才少年君に依頼して作ってもらった君専用の新兵器、ディケイドアダプバイザーさ。」

それはどこことなくディエンドドライバーに似ているが、ドライバーよりも小さくコンパクトな形をしていて、ディケイドマークが真ん中に付いたアイテムだった。

ディケイド「なるどな、しかし一体どういう風の吹き回しだ？」

ディエンド「僕らは仲間だろ？　それだけさ」

ディケイド「とりあえずサンキューな！だが、コイツはどうやって使うんだ？」

ディエンド「まず左腕に装着するんだ！次に君が変身出来るライダーカードを二枚まで装填するん…」エターナルが再び攻撃を加えて来たので説明が途切れる。

ディケイド「とりあえずやってみるか！」

ガチャ！つとディケイドの左腕にディケイドアドバイザーが装着される。

ディケイド「いくぜ！！」

（カメンライドオーズ）

（カメンライド・ファイズ）

ディケイドのディケイドアドバイザーは何と二人のライダーを召喚したのだ！

ファイズ「戦う事が罪なら俺が背負ってやる！」

オーズ「目の前に命があるなら俺が必ず救ってみせる！」

ディケイド「なるほどな、コイツは驚いたぜ！」

果たして、この戦いの決着は？

後半に続く！



## ディケイド&プリキュアVSデストロイド前編（後書き）

いかがでしたか？

オリジナル設定に登場した新アイテム！

その名もディケイドアドバイザー！

いよいよ本格的に起動してきましたよ。

モモタロス「うーちくしょう大した活躍出来なかったぜクッソ」

モモタロスさんまあまあ落ち着いて、仕方ないですよ。あなた気絶してしまっただから。

モモタロス「ちくしょう悔しい」

駄目だこりゃ、

さて今回はではなく 再びディケイドアドバイザーの追加設定！新ケータッチの設定！ディケイド新生コンプリートフォーム&ディエンドコンプリートフォームV2について説明しようと思っております。

実はディケイドアドバイザーはタダの召還機ではなく！おっとまた次回をお楽しみに

モモタロス「クッソ」

モモタロスさんしつこい！

## ライダーの新アイテムと新コンプリートフォームの解説と説明（前書き）

やっと設定編集出来ました。ではどうぞ！

モモタロス「早く暴れてえ〜」

エレン「うるさいよモモタロス」ボカ！

モモタロス「いってえな〜いきなりなにしゃがるんだ？」

## ライダーの新アイテムと新コンプリートフォームの解説と説明

ディケイドアドバイザーナックルモード

ディケイドがコンプリートフォームに変身した時のみ使用可能になる。事実上コンプリートフォーム専用モード！ディケイドアドバイザーの真の姿で外見は一変してナックルウェポンのような形に変形する

必殺技はディメンションライダーパンチ

ディケイドレジェントコンプリートフォーム（ディケイドLCF）  
ディケイドがバージョンアップしたケータッチで、コンプリートフォームに変身した姿！

全てのステータスが通常のコンプリートフォームの十倍になっており、ダブルとオーズのカードがクウガの下に追加されている。  
本編では最終回に出る予定

新ケータッチ

ディケイドとディエンドのケータッチがリニューアルされた物。  
基本性能が上がっておりそれぞれに新しいカードが追加された。  
ディケイドがWのマークを押すとエクストリーム  
オーズならプトティラノコンボが呼びだされる

ディエンドコンプリートフォームV2

ディエンドが新たなカードを使って変身する強化コンプリートフォーム。同じく通常の十倍に強化される。飾りのカードが全て二号ライダーになっているのが特徴。  
順番は次ようになっている

G3 ナイト カイザ ギャレン 威吹鬼 ガタックゼロノス

イクサ アクセル バースの順番になっている  
呼び出すとそれぞれ強化フォームになる

G3〓G3X

ナイト〓ナイトサバイブ

カイザ〓ブラスターフォーム。

ギャレン〓キングフォーム

威吹鬼〓アームド

ガタツク〓ハイパー

ゼロノス〓ゼロフォーム

イクサ〓ライジング

アクセル〓ブラスター

バース〓バースデー

こちらにも最終回に登場予定

仮面ライダーカイザ ブラスターフォーム

本作オリジナルフォーム。

スマートブレイン社が開発したカイザブラスターを使って変身した  
カイザ最強形態。基本的にはファイズブラスター同じ性能で同じの  
名の技も使う。

必殺技はカイザブラスターショット

仮面ライダーギャレンキングフォーム

本編では登場しなかった幻のフォーム。後は公式設定を参照。

仮面ライダー威吹鬼アームド。

本作オリジナルフォーム

威吹鬼がアームドセイバーを銃型にしたアイテム、アームドマグナ  
ムで装甲化し変身した威吹鬼の最強形態。

必殺技は威吹鬼波動弾！

声を高める事で威力を調整できる。

共通カード。

ファイナルカメンアタックフォームライドオールライダーズ。

全てのライダーが一斉攻撃を仕掛ける、二人の最強技。ただし一度の戦いで1回しか使用出来ない。

## ライダーの新アイテムと新コンプリートフォームの解説と説明（後書き）

いかがでしたか？色々な設定を作るのは本当に楽しい事です

さて実はこの場をお借りして皆さんに報告させておきます。

モモタロス「なんだよ急に？」

実は俺は仮面ライダーとモモタロスは大ファンなんです、プリキユアは全然ファンでもないんです！不快になったら皆さんすみません！（必至の土下座）

モモタロス「なに？じゃあ何故この小説を作ったんだ！」

えーと、実は俺はエレン役の豊口めぐみさんが大好きなんです。それが理由でこの小説でコラボしたら面白いかなって思ったんです全員「ファンに失礼だろ」そんな理由で作るな」

ぎゃーごめんなさい（必至の土下座）許して」

じ次回はいいよ後編ですお楽しみに」

後プリキユア達が本格的なFFRするかもしれないので（ダッシュ）

全員「逃げるな」

ディケイド&プリキュアVSデストロイド 後編 最後の戦い！？（前書き）

モモタロス「俺様の出番まだかゝ戦わせろゝ」

モモタロスさん今日から復活しますから大丈夫ですよ。

モモタロス「本当か！よっしゃゝひと暴れしてくるぜ！」  
ではスタートです

## ディケイド&プリキュアVSデストロイド 後編 最後の戦い!?

一方のディエンド達とプリキュアはエターナルの強さに苦戦していた。

ビート「ハアハアゝなんて強いヤツなの!」

リズム「このままだと全員やられちゃう。」

メロディー「みんな諦めないで!ここはみんなの必殺技でいくわよ!」

クウガ「よし!こっちは究極の力で!いくぞ!超変身!」

クウガは再度変身ポーズをして、クウガ最強のライジングアルティメットに変身する。

メロディー「スゴイ!なにソレ!」

ビート「まるで黄金のクワガタ虫みたい」

リズム「スッゴク格好いいわよ!」

RUクウガ「ありがとうみんな!」

仮面の下でニヤニヤするユウスケ

ディエンド「ニヤニヤしている場合じゃ無いだろ!! まったく。士1人借りるよ!」

ディケイド「わかった好きにしる!」

ディエンド「君!痛みは一瞬だ!」

と1枚のカードを銃に装填しファイズに向ける。

ファイズ「アイツ何をするつもりだ!」

オーズ「さあ?何でしょう?」

ファイズエッジとメダジャリバーでデストロイドを攻撃しながらお互いに顔を見る。

【ファイナルフォームライド・フアフアフファイズ】

ファイズ「今の何なんだ?!オワア!」

ファイズが奇妙な声を上げるとファイズブラスターに変形する!

オーズ「えっファイズさんが武器になった?」



メロディー「変形した！

リズム「なんか痛そう」

ビート「不思議ね」

ファイズ「おい！コレは何なんだ！

ディエンド「僕と君の力さ！さあいくよ！」

【ファイナルアタックライド・ファファファイズ】

ディエンド「はあ」

メロディー達もベルティエとロッドを取り出してフェアリートーンを装着して技を放つ。

メロディー「プリキュアミュージックロンド！

リズム「プリキュアミュージックロンド！」

ビート「プリキュアハートフルビートロック！」プリキュア達も一斉に技を放つ！

RUクウガ「ハア」！

RUクウガは跳び蹴りの体制で炎と雷をまとった、ライジングアルティメットキックをエターナルに向けて放つ！だが…

エターナル「そんな技が俺に通用すると思っているのか？バカな奴らだ」エターナルはエターナルエッジにエターナルメモリを装着する。

【エターナルマキシマムドライブ】

エターナル「さあ、地獄を楽しみな！」

エターナルエッジから衝撃波が発生してディエンド達の技を消し去り全員を吹き飛ばす！！

メロディー「くっなんて威力なの！？あれ？ミリーどうしたの！！きゃあ〜！」

リズム「メロディー！どうなってるの？！ファリー大丈夫？ああ〜！」

ビート「みんなどうしたの！ソリーっかりして！くっ力が！」

何とフェアリートーンが突然弱り、プリキュア達の変身も解けてし

まったのだ！

RUクウガ「なんだ今のは！くっ力が！急激に抜けていく！うわあ  
く！？」

何とRUクウガまで技を強制的に解除されその場に倒れる！そのまま変身も解けてユウスケが気絶する。

ディケイド「おいユウスケ！しっかりしろ！一体どうしたんだ！」

デストロイド「他人を心配している場合か！」

【ファイナルアタックライド・デエデエデストロイド】

デストロイドがデストロイドブッカーアックスモードで必殺技をディケイドに叩き込む。そのダメージでディケイドは変身が解けて同時にオーズも消滅する！

士「ぐはっなんて力なんだ！？」

ディエンド「士！くつまずいな！」ファイズブラスターは吹き飛ばされた衝撃で消えていた。

ディエンド「エターナルメモリは他の旧型メモリを無効化する能力のはずだ！なのになぜ？まさか！」

エターナル「気づいたようだな！お前の察しの通りコイツは完成したガイアメモリだ！ハハハハ！」エターナルは不気味に笑う。

ディエンド「どういう事だ！メモリは確かに全て僕がいたいたはずだ！」

エターナル「バカだな」試作品なんていくらでも作ってたんだよ！そしてこのメモリを含め24本完成させたのさ！お前たちのくだらない力なんてこのエターナルメモリがあれば封じる事が出来るんだよ！」

エレン「だからフェアリートーンが弱ったのね！アイツ！絶対に！許さない！」三人は強く拳を握る。

ディエンド「クソ」なんて失態をしてしまったんだ僕は！？グワア  
く！？」

海東も変身が解ける！

エターナル「残りはお前らだなゆつくり始末するか！」

響「まだよー！」

と響が立ち上がる

エターナル「何だ小娘！力が無いザコは大人しくしてろ！」

奏「まだ、私達には友情のハーモニーパワーがある！」

エターナル「友情のハーモニーパワーだと！？」

デストロイド「そんなくだらない友情で何が出来る！破壊こそ最強の力だ！ハハハハハ」

エターナル「デストロイドの言うとおりだ！ぐだらん！死ねよお前ら！」

エレン「違う私達の友情は絶対にくだらない物じゃないわ！！絶対に違う！」エレンがライダー二人を睨みつける。

デストロイド「バカかお前は！あり得ないんだよ！」

士「いや、それは違うな！そいつらは正しいぜ！」

士は立ち上がりながら言う！

デストロイド「なに？」

士「友情つてのはお互いに支える力の事なんだ！その絆はやがて自分達以外の新しい力を生み出す。破壊ばかりしか出来ないお前らなんかよりも十倍いや、百倍も強いんだ！だからお前らは絶対にそいつらの友情や絆に勝てやしないんだよ！」

デストロイド「貴様一体何様のつもりだ！」

士「通りすがりの仮面ライダーだ！覚えておけ！変身！」

【カメンライド・ディケイド】

【カメンライド・オース】

変身と同時にオースが再び召還される！

響達「私達は！この世界の音楽と友情を守るプリキュアよ！」三人から友情のハーモニーパワーが出て再びプリキュアに変身する

メロディー「爪弾くは荒ぶる調べ！キュアメロディ！」

リズム「爪弾くはたおやかな調べ！キュアリズム！」

ビート「爪弾くは魂の調べ！キュアビート！」

三人「届け、3人の組曲！スイートプリキュア！」

三人が名乗り上げる！

海東「さあ最後の戦いの始まりだね！変身！」

【カメンライド・ディエンド】

立ち上がり再びディエンドに変身する！

そして気絶していたユウスケとモモタロスが気がついて立ち上がる  
ユウスケ「みんなの笑顔と友情の為に俺達が止めてみせる！変身！」  
ユウスケはクウガマイティフォームに変身する。

モモタロス「さっきはよくもやってくれやがったな！だがな本当の  
戦いはこれからだぜ！」

モモタロスはライダーパスとデンオウベルトを取り出して腰に装着  
するとボタンを押す！するとメロディーが流れ出す！

モモタロス「行くぜ！変身！」

（ソードフォーム）

セタッチして電王ソードフォームに変身する！

電王「俺！再び参上！」

電王がまたポーズを決める！

メロディー「モモタロスがさっき土さんが変身したライダーになっ  
ちゃった！」

リズム&ビート「どうなってるの？」

ディケイド「俺がさっき変身したのはカードの力で同じ姿になった  
だけだ。そしてあれが本当の電王だ！」

プリキュア達「なるほどね」

デストロイド「バカな変身出来るハズが！」

エターナル「どうなってるんだ！」

オーズ「あんた達のメモリはもう通用しないよ！既にある人によっ  
て無効化されているんだからね」

エターナル「バカな！アイツはこの世界に来て無いハズ！」

？「残念だけど君のデータは検索済みさ。それとエターナルの能力  
は無効化させてもらったよ！」突然ディケイドアドバイザーから映

像が出てきたのだ！

フィリップ「やあみんな待たせたね！」

ディエンド「やあ、フィリップ君、随分と遅かったね！」

フィリップ「色々時間がかかってね。でも無事に完成したよ。さあ、君たち二人にお届けものだよ！」

フィリップは転送装置で二人に新ケータツチを送る

ディケイド「確かに受け取ったぜ！全ての力を！」

ディエンド「うんだいぶ軽くなったな！」

メロディー「あれがフィリップさんなんだ！」

リズム「なんかかつこいいかも」

ビート「すごく頭良さそうね。」

フィリップ「僕の出番は終わりだね。それじゃあまたね。

フィリップが消える。

デストロイド「バカなこんな事が！」

エターナル「まさかそこに転送装置と無効化プログラムが入っていたとは！許さんぞ貴様ら！」

デストロイド「お前らを破壊してやる。ふん！！！」  
「デストロイド

は自らの体からメモリを取り出しエターナルに渡す！

デストロイド「使え！そしてコイツらを滅ぼせ！」

エターナル「わかった。」

ゾーン！マキシマムドライブ

デストロイドを含めた23のメモリが一斉にマキシマムドライブを発動する！

エターナル「はあコレで終わりだ！」

エターナルが最強の必殺技ネバーエンドワールドを発動する！

ディケイド「させるか！必ず止めてやる！うん？」

ライド・ブッカーから三枚のカードが出てくる。

ディケイド「よし！まずはコレだ！オーズちよっとくすぐりたいぞ  
！」

（ファイナルフォームライド・オッオッオッオーズ）

オーズ「えっおれですか！」

ディケイド「いいから後ろむけ！」

強制的に後ろ向きにされるオーズ

オーズ「うわぁ〜！」

そのままオーズはメダジャリバーに似た巨大な剣オーズジャリバーに変形しディケイドは両手で握り構える。見た目はメダジャリバーに似ているがセルメダルの変わりにタトバのコアメダルが入っていた。ディケイドはすぐに必殺技を使用する、

（ファイナルアタックライド・オツオツオツオーズ）

すると巨大オースキャナーが何所からもなく現れてスキャンする

（トリプルスキャニングチャージ）

ディケイド「行くぜ！セイヤア〜」

ディケイドはオーズジャリバーからディケイドバツシュを炸裂させる！

メロディー「私達の友情の力」

リズム「絆の力」

ビート「見せて上げるわ！」プリキュア達「プリキュアパツシヨナ

〜トハ〜モニ〜！轟け三人のハーモニ〜パワー響渡れ〜！

それぞれの技が決まりエターナルは吹き飛ばされて倒れる！

エターナル「くっクソ！覚えておけお前ら」とオーラに撤退する

ディケイドがオーズジャリバーを放り投げると消滅する。

ディケイド「さあ残りはお前だ！みんないくぞ！」

プリキュア達「はい！！」

果たして決着はどうなるか！

続く！

ディケイド&プリキュアVSデストロイド 後編 最後の戦い！？（後書き）

モモタロス「何だよ変身シーンだけじゃないか！どうなってるんだよ！」

まあまあ、次回には思いっきり暴れてもらいます。なんせ感動の最終回ですから。

モモタロス「よし次回こそ！うん最終回？」

エレン「えゝもう終わるのゝ」

あまり長すぎると終われなくなってしまうし、こっちも疲れるんですよ。次回作のネタ作り始めたいし。

エレン「ふゝんそうなんだ お疲れ様」（にこ）

！なんかやる気出たゝ

さて次回はいよいよ最終回です。後、またまたスペシャルゲストに来てもらいます。もちろんあのイカ頭ライダーですよゝ

？「誰がイカ頭だゝお前気にいらねーが友達になってやる！」

おつ元気ありますね。しかも友達に！次回にはもちろん本作オリジナルフォーゼのFFRあります。

モモタロス「てめえ俺を無視するな！必殺！俺の必殺技！俺の相手は100年早いだんよ切り！」

うわゝゝやめてゝ

決着と宇宙キター！（前書き）

フォーゼのパート修正版です！ではスタートです！  
色々手を加えてみました。ではどうぞ



## 決着と宇宙キター！

デストロイド「ふふふ！なめるなよ！俺には貴様ら全員を倒す切り札がある！」

ディケイド「切り札だと！？」

ビート「一体何をする気！」

デストロイド「戻って来い！我がメモリ達よ！」

すると地面に落ちていたデストロイメモリと海東が持っていたマッスルとソルジャーがどこから飛んで来てデストロイドの手に収まる！

ディエンド「僕のお宝が！一体なぜ！」

デストロイド「元々このメモリは俺のマスターがネバーの組織に作らせた俺専用のメモリだからだ！」

ディケイド「お前専用のメモリにマスターだと！？どういう事だ！」

デストロイド「冥土の土産に教えてやる。海東から奪ったメモリをメフィストに渡したのも俺のマスターさ！その名はマスターウォーズ！」

リズム「何者なの！その人！」

デストロイド「俺を生み出したショッカーの科学者であり、ディケイドの持つディケイドライバーを開発した張本人さ」

ディケイド「コレを作った張本人だと！？」

デストロイド「そうさ！だからマスターは俺のデストロイドライバーも作れたのさ！そしてそこにいる海東大樹のおかげで俺は究極の力を得る事ができる！」

ディエンド「僕のおかげだと！？嘘だ！それにメモリは君が僕から盗んだハズだ！」

デストロイド「俺のマスターは変装が得意なんだよ！それにマスターがなぜわざわざお前にメモリを盗ませたと思う？それはメモリを

強化させる為さ！」

ディエンド「わざとだと！？じゃあ初めから僕が盗むのも計画の一つだったのか！」

デストロイド「まさにその通りだ！ちなみに、それぞれのメモリにはお前達の力と俺の力を吸収して強くなるようにしてある！さあ、見るがいい究極の破壊の力を！」

三つのメモリが合体し一つのメモリになる！

メロディー「合体した！？」

デストロイドがメモリを押す！

メモリ「アルティメット！」

ディケイド「なに！アルティメットだと！？」

デストロイド「コレが俺の最後の力だ！ハァ！」

デストロイドはメモリを胸に差し込む！するとメモリはデストロイドに吸収されデストロイドから凄まじい闇のオーラが放たれる！

デストロイド「これが最凶のデストロイドアルティメットモードだ！ウオ！貴様らと、この世界を破壊して！やる！！」

プリキュア達「くっなんて力なの！コレじゃあ近づけない！」

ディケイド「みんな諦めるな！このカードで勝負するぞ！」

ディケイドは2枚目のカードをバツクルに装填する。

（ファイナルフォームライドプップププリキュア）

メロディー「えつまさか！」

リズム「嫌な予感！」

ビート「何をする気なの？」

ディケイド「お前らいいから前向け！ちよつとくすぐりたいぞ」ディケイドは三人の背中に手を当てる！そして、なんと三人は巨大な専用武器に変わったのだ！

クウガ「士、お前鬼だな。」

電王S「痛そうだな！オ！イ嬢ちゃん達大丈夫か？」

ディケイド「仕方ないだろ！そういう力なんだ！」

メロディー「ベルティエ」もう早く必殺技決めて！」

リズムベルティエ「早く元に戻りたいの！」

ビートギターロッド「今のくすぐったいレベルじゃないんだから」

ディケイド「ユウスケ！海東！お前ら握れ！決めるぞ！」

ディケイドはメロディーを握る

ディエンドはリズムを！

クウガはビートを持つ

ディケイド「行くぜ」

（ファイナルアタックライド・プップププリキュア）

全員「プリキュア！デイメションロンド！いっけ」

全員の声と共にリングがデストロイドAMに命中する！

全員「3拍子！1・2・3！フィナレ」

だが！

デストロイドAM「無駄だ！そんな技では俺は倒せないぞ！」

何とデストロイドAMには必殺技は効かずに無傷のまま立っていた。

ディエンド「駄目だもつと強い技で攻撃しないと！」

プリキュア達が元に戻る！

メロディー「結局意味ないじゃない！あゝ痛かった」

リズム「今回だけで良かった。あゝ体が痛い」

ビート「二度とゴメンだわ！うゝ背中が！」っとプリキュア達はうめいた。

ディケイド「悪かったな！だがコレでも駄目ならコイツの出番だな！」

っと2人がケータツチを取り出した正にその時！目の前にオーラが出現したのだ！

ディケイド「なんだ？」

メロディー「あれ？誰か出てきたよ！」

突然中から男子高校生が出てきた！

？「やつべえゝ完全に遅刻だあゝうん？ここはどこだゝ！」と叫ぶ！  
その高校生は短ランにTシャツにボントンに友情と書かれたファイアマーク入りのカバン。そしてリーゼント頭だった。

リズム「あの～アナタ誰ですか？」

弦太郎「俺か？俺は如月弦太郎だ。天ノ川学園高校の二年生だ！よろしくな！」

驚きながらもきっちり挨拶をする弦太郎

メロディー「キュアメロディです。ってそうじゃなかった！天ノ川学園高校？そんな学校あったっけ？」

リズム「私達の世界にはない高校よ。という事は……！」

ビート「別の世界から来たって事？」

弦太郎「うん？別の世界？どういう事なんだ？って言うかお前らはなぜ変なコスプレしているんだ？」

その一言にメロディー達はずっこける！

メロディー達「わたし達はコスプレしてません！！わたし達は伝説の戦士プリキュアです！」

弦太郎「えっプリキュア？戦士？って事は君たち仮面ライダーって事か……？」

メロディー「だから、わたし達は仮面ライダーではなくてプリキュアです！確かに力は似ていますが、全くの別物なんです！」

ディケイド「それにここはお前の住んでいる世界じゃない。ここはプリキュアの世界なんだ！つまりパラレルワールドって事だ！と言うかお前どうやってこの世界に来たんだ？しかも何故仮面ライダーを知っているんだ！」

弦太郎「えっ？俺はいつものように学校に向かって走って、だけど遅刻しそうでやばかったから近道しようと角を曲がったらここに付いたんだ！それに俺は仮面ライダー部の部員だ！」

ディケイド「仮面ライダー部？」

弦太郎「仮面ライダー部ってのは学園や困っている人々を助ける非公式の部活なんだ！」

自慢げにこれまでの出来事を話す弦太郎。

しばらくして……

ディケイド「なるほどな！それでライダーの事を知っていたのか！」

弦太郎「まあな！あゝあどうしよう？うん？とりあえず放っておいたアイツいいのか？」

弦太郎が指を指すとデストロイドAMが巨大な闇の塊を作っていた。デストロイドAM「俺を無視しやがってゝ！貴様ら全員死ねゝ！」  
デイエンド「とりあえず君もライダーなんだろう早く変身してくれたまえ！」

弦太郎「おう！」

とカバンの中からフォーゼドライバーを取り出して腰に装着する！  
ビート「何あのベルト？たくさんのスイッチが付いたいるけど…」  
デイケイド「変わったベルトだな！」

弦太郎はベルトの赤いスイッチを全て入れる！

【3(three)2(two)1(one)】

弦太郎「変身！」

弦太郎がガッツポーズの用に構えそしてレバーを引くと同時に腕を突き上げた瞬間に光のリングが現れ弦太郎が変身する！

メロディー「うゝまぶしい！なんなの！」

弦太郎は煙と共に姿を変え仮面ライダーフォーゼに変身した！

フォーゼ「とりあえず宇宙キター！」

フォーゼはバンザイをしながら叫ぶ！

デイケイド「なっなんだ！」

電王S「あの坊主が変身しやがった！しかもイカ頭の仮面ライダーか？」

フォーゼ「イカ頭って言うな！俺は仮面ライダーフォーゼだ！」

デイケイド「仮面ライダーフォーゼか！まあいい、援軍は1人増えるだけでも心強い」

フォーゼ「まあ、細かい事は気にしないでくれ！それじゃあタイムン張らせてもらうぜ！」

フォーゼは右拳を前に突き出して言う！

ビート「タイムン？何それ？」

フォーゼ「1対1で戦うって意味だ！さあ出てきてそうそう悪いん

だが時間ねえし！さつさと終わらせるか！いくぜ！」

フォーゼは走りながらオレンジのアストロスイッチを押す！

【ロケット・オン】

独特のメロディーが流れて、腕にロケットモジュールが装備される！  
メロディ「右腕にロケットが装着された？」

フォーゼはそのまんま空中に飛んだ！

フォーゼ「さらにいくぜ！」

次に黄色いアストロスイッチを入れる！

【ドリル・オン】

今度は左足にドリルモジュールが装着される！

リズム「今度はドリルだわ！だけど、あれでどんな技を？」

フォーゼ「食らえ！ライダーロケットドリルキック！！！」

フォーゼはもう一度レバーを引く

【リミットブレイク】

フォーゼ「おりやあ〜」

デストロイドAMに向けて必殺技を炸裂させる！

電王S「しゃあ！俺も行くぜ〜！」

電王がベルトにパスをセタッチしてフルチャージして走る！

【フルチャージ】

電王「いくぜ！必殺！俺の幻の必殺技！パート4〜おりやあ〜！」

電王はデストロイドAMに向かって行き斜め、横、縦で4を描く用に切り裂く！

だがデストロイドAMはそれらの技を受け止めて必死に耐える

デストロイドAM「まだまだ〜ふん！」

火炎弾で接近していた電王に攻撃する！

電王「うお！あぶねえ〜あちい〜！」

火が当たり火だるまになり転がってデイケイドの元に戻る電王

フォーゼ「待つてろ！すぐ助けてやる！」

フォーゼは着地して走りロケットスイッチを外してファイヤースイッチをセツトする

【ファイヤ〜】

フォーゼ「消化タイムだ！」

スイッチを引く！すると

【ファイヤ〜オン】

独特のメロディと共に一部を除いて赤い戦士ファイヤーステイツにステイツチェンジする。

そしてヒーハックガンが出現して素早く消火モードに切り替えて構えた。

メロディ「赤いフォーゼ？」

リズム「どこかで見た事ある姿ね〜？」

ビート「わかった！消防士よ！」

フォーゼF「正解！まってるよ〜！」

消火を開始して電王を助ける！そして

電王「助かった〜ありがとよ唐辛子！」 真っ白

フォーゼF「誰が唐辛子だ！まったく！だけどアイツ強いな！どうすれば！」

困るフォーゼ

デイケイド「しかたないな！」

と最後にフォーゼの絵柄が入ったカードを使う！

デイケイド「ちよっとくすぐったいぞ！」

【ファイナルフォームライド・フォフォフォフォーゼ】

フォーゼF「えっなんだ？今の音 うわ〜！」

フォーゼはベースステイツに戻ってドリルが先端に付いた大型ロケットに変形してしまった！

メロディ「今度はロケットに変形しちゃった！」

フォーゼ「なんだよ〜コレ〜！」

デイケイド「コレが俺達のカだ！行け仮面ライダーフォーゼ！」

フォーゼ「何だかわかんねーけどいくぜ〜！」

【ファイナルアタックライド・フォフォフォフォーゼ】

フォーゼ「食らえディメンションライダードリルアタック〜！！！」

電王「ぎゃああ〜」 巻き込まれた！

電王を巻き込み共にフォーゼが突っ込む！

デストロイドAM「グワ〜」と大爆発が起こる！

フォーゼは元に戻って地面におりた。

フォーゼ「よっしゃ〜！」

電王「！！いつてえ〜何しやがるんだ！」

立ち上がって講義する電王

フォーゼ「悪い！偶然だつて！」

必死に誤るフォーゼ

デストロイドAM「まだだ！この程度で負けてたまるか！」

何と大ダメージを受けたデストロイドAMはフラフラとしながら何とか立場上がった。

メロディー「嘘〜！あれだけ激しい必殺技が当たったのに！」

フォーゼ「なんてタフなやつだ！？」

ディケイド「やっぱりコイツの出番だな！」

ディケイド達は再びケータッチを取り出す

メロディー「待つて！今の土さん達の力だけじゃ力が足りないわ！

だから、わたし達の残った最後の力を使つて！」

クウガ「だがそんな事をすれば君たちが！」

リズム「わたし達は大丈夫です！」

ビート「わたし達の友情のハーマニーパワーならあなた達に力を与えられるハズ！それにわたし達の力もあまり残つてないの！」

メロディー「お願い！やらせて！」

メロディーがディケイドを見つめる。

ディケイド「わかつた！だが絶対に無理はするな！いいな！」

メロディーはうなづく。

メロディー「リズム、ビート！いくよ！ハア〜！」

メロディー達の手からハーマニーパワーが光になりディケイド達に注がれる！

ディケイド「これがプリキュアの力か！」



クウガ「ハア」

ディエンド「力が！僕達の中に彼女達の力が溢れてくる！」

そして、力を託したプリキュア達は変身が解けそのまま倒れる。

響「負けないで…」

奏「必ず勝つて…」

エレン「約束だよ…」

ディケイド「ああ！必ず勝つてやる！」

クウガ「託された力無駄にはしない！みんな、いくぞ！究極変身！」

クウガはポーズを取るとライジングアルティメットに変身する。しかも目が赤ではなく黄金に変わっていたのだ。

デストロイドAM「何だその目は？」

RUクウガGアイ「コレがプリキュア達の友情の力だ！」

デストロイドAM「そんなバカな！」

光のオーラをまとったディケイド達は新ケータッチを押し始める。

マゼンタのケータッチ「クウガ・アギト・龍騎・ファイズ・ブレイド・響鬼・カブト・電王・キバ・ダブル・オーズ！ファイナルカメ  
ンライド・ディケイド！」

シアンのケータッチ「G3・ナイト・カイザ・ギャレン・威吹鬼・ガタック・ゼロノス・イクサ・アクセル！ファイナルカメ  
ンライド・ディエンド！」

ディケイドはレジェントコンプリートフォームに！

ディエンドはコンプリートフォームV2になる。

フォーゼ「俺もやるぜ！」

フォーゼはファイヤースイッチをエレキスイッチ変えて押す

【エレキ】

【エレキオン】

またメロディーが流れて金色の戦士エレキステイツにステイツチェンジしビリーザロッドを持つ！そしてコードを刺して構える！

デストロイド「くっそんな姿になっても無駄だ！」

ディケイドLCF「どうかな！今から友情の力を見せやる！海東！

弦太朗！」

ディエンドCF「ああー！！」

フォーゼE「おう！」

2人「コレで最後だ！」

【ファイナルカメンアタックフォームライド・オッオッオッオールライダーズ】

RUクウガGと電王と召還されたライダー達は最強フォームに強化変身をして光線とキックなどの必殺技を放つ！  
クウガ・アギト「はあああ！」

【ガチャ！】 ケロベロスを構える

【ファイナルベントx2】

【Exseed charge x2】

【ロイヤルストレートフラッシュx2】

【音撃刃 鬼神覚声】

【音撃弾 鬼神覚声】 イブキ

【マキシマムハイパーサイクロン】

【123！ライダーキック】

【フルチャージx2】

【ウエイクアップ】

【~~~~~】

【エクストリームマキシマムドライブ】

【エンジンマキシマムドライブ】

【プットッティラノ〜ヒツサ〜ッ】

【セルバースト】

【リミットブレイク】 スイッチをセットして発動

一斉攻撃が炸裂する

ライダーズ「はあああああああああ！どりやあああ！」

フォーゼE「くらえライダー100億ボルトブレイク~~~~！」

フォーゼもすれ違いでデストロイを切り裂く！

デストロイドAM「ぐお〜バカな〜究極の力が通用しないだど！？」

何とか耐えるデストロイ！だが  
ディケイド「言ったはずだ！そんな力は友情の力に勝てないってな  
！」

【ファイナルアタックライド・ディ・ディ・ディ・ディケイド】

ディケイド「くらえ！俺達の友情の力を！」

ディケイドはディケイドアドバイザーナックルモードでディメシヨ  
ンライダーパンチでトドメを差す！

ディケイド「うおおおおお！」

デストロイド「うわあ！」

デストロイドに凄まじいパンチが当たりデストロイは空中に飛ばさ  
れながら大爆発を起こし消滅した！

ディケイドLCF「終わったか……」

こうして長い戦いに決着が付いたのだった。

それから2日後再びオーケストラ公演が開かれ仲間達全員が招かれ  
た。

夏美「全く何で私だけ！」

ユウスケ「まあまあ夏美ちゃんもう済んだ事だし。な！」

海東「そろそろ、かな

響「なんか楽しみなな」

奏「あつ！出てきたよ」

エレン「土さんかつこいい」

エレンが大きな声で叫ぶ

全員「静かに！」

エレン「ゴメンなさい」

M弦太郎「さあいよいよだな！何か楽しみだぜ！

弦太郎「お前何で俺に憑依するんだよ！」

M弦太郎「しょうがね」だろ！俺の見た目がヤバいんだからよ！」

弦太郎「しょうがね」な！」

この後士は見事な演奏をした。」

その後の光写真館への帰り道。

士「やっとこの世界の役目が終わったな。」

響「ずっとこの世界にいればいいじゃない!」

奏「うん!! いいわね」

エレン「駄目よ2人とも、士さん達は…」

士「俺達は旅人だ! だからいつまでもこの世界にいる訳に行かない。」

「

ユウスケ「だけど俺達はいつまでも友達だろ?」

ユウスケは笑いながら話す。

響「そうね。確かにそうかもね」

奏「まだどこかで会えるかもしれないしね」

エレン「そうね」

士はトイカメラで彼女達を撮る。

士「さあみんな帰るぞ!」

響たち「またね〜みんな〜」

そして光写真館に付いた士たちは先ほど撮った写真を見ていた。

夏美「この写真は、いいですね」

その写真には笑顔の響達が前に後ろにプリキュア達が写っていた。

栄次郎「すばらしい写真だね〜さあ晩御飯にしようかな。おっとっ

と」

栄治郎がこけた瞬間に絵が変わる。

士「おいじいさん大丈夫か! うん?」

モモタロス「おいコレは!!」

弦太郎「俺の世界だ。」

全員「え〜」

次回作に続く?

## 決着と宇宙キター！（後書き）

いかかがでした？フォーゼのパートには最近登場したフォームも追加しました！後ファイナルフォームライドさせてみましたではまた！

## 最終回での設定（前書き）

最終回のライダー説明です  
ではどうぞ

## 最終回での設定

仮面ライダークウガ   ライジングアルティメット   ゴールドアイ（RUクウガG）

本作のオリジナルフォーム

クウガがプリキュア達の友情の力を受け取り究極変身したクウガの究極形態。

プリキュア達の友情の力の影響で常に体から光のオーラを放っている。

必殺技はライジングアルティメットゴールドキック。

仮面ライダーデストロイド   アルティメットモード（デストロイドAM）

アルティメットメモリの力で究極の破壊の力を手に入れたデストロイド最強の姿、見た目は変わらないが凄まじい闇のオーラを常に放っている。

必殺技

ダークネスアルティメットデストロイ

体から凄まじい闇のオーラを放ち敵を破壊するデストロイドAMの最強技

周囲を一瞬で破壊する力がある。

アルティメットメモリ

マッスル   ソルジャー   デストロイのメモリが合体して誕生した最強かつ究極のメモリ

本作ではデストロイドAMと共に消滅した。

仮面ライダー電王

俺の幻の必殺技パート4！

本作オリジナルであり幻の技が初登場！

基本的にはデングァッシャーソードの剣先を飛ばさないで使用する。

まず斜めに切り 次に横 そして上から縦に4を描くようにぶった切る技。



## 最終回での設定（後書き）

モモタロス「ところでよアンタ次回作何作る気だ？」

次回作は仮面ライダーキバをメインにしたコラボ作でも作ろうかと思っ  
ていますね。

モモタロス「俺様が入ってねーじゃねえか入れろー」

そんな無茶な

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3496w/>

---

仮面ライダーディケイド×スイートプリキュア 新たな出会いと戦い！

2011年11月11日19時38分発行